



稚内高校商業クラブ部長
三上 竜平さん

北 と南の最果て同士の交流は、このような機会がないとなかなかできないので、携わることができてうれしく思います。枕崎のみんなとは「素のまま「ラフ」な感じで交流したいと思っていました。コンカツグルメの振る舞いイベントは、最初は準備が大変でいろいろと心配でしたが、みんなで協力しあって成功できたので本当によかったです。意見交換会では、お互いのまちを理解できたと思います。でもまだまだ枕崎のことを知りたいと思いました。これから卒業して、社会人になっても連絡を取り合えるような付き合いができれば幸せだなと思います。枕崎には絶対行ってみたいです。

interview



鹿児島水産高校食品工学科3年
黒江 晃生さん

稚 内は枕崎と全然違うなというのが第一印象でした。コンカツラーメンは、改良を重ねて今の形ができて、「いい評判だったよ」と稚内高校商業クラブのメンバーから聞いたときは、とてもうれしかったです。商業クラブのメンバーとは今回初めて顔を合わせて、最初は照れくさかったけどいろいろ交流をする中で仲良くなって、これからもやり取りをしていきたいなと思います。今回、稚内高校の人たちがとてもよくしてくれたので、枕崎に来たときは負けないくらいのおもてなしで迎えたいなと思っています。今回の稚内での経験は、自分にとってとても貴重な経験でした。

7月1日、稚内北星学園大学で、鹿児島水産高校と稚内高校の生徒たちによる意見交換会が行われました。意見交換会には鹿児島水産高校の食品工学科の生徒及び薩摩青雲丸の実習生と稚内高校商業科1年生及び商業クラブの生徒が参加しました。両校の代表の生徒がそれぞれのまちの文化や自慢の各学校生活などについて紹介した後、さまざまな意見が交わされ、お互いの地域について理解を深めました。交流会終了後には場所を移動し、食事をしながらさらなる交流を深めていきました。



鹿児島水産 高校生が友好の絆を深める



①稚内市の青山副市長から名前入りプレートが贈呈 ②稚内港に入港した薩摩青雲丸と実習生 ③意見交換をする両校の生徒 ④コンカツラーメンのトッピングをする稚内高校の生徒 ⑤カツオ捌き隊がカツオの解体を披露 ⑥コンカツラーメン ⑦薩摩青雲丸の見学に訪れた稚内市民に説明をする実習生 ⑧コンカツグルメに舌鼓を打つ来場者 ⑨最北の地を訪れる鹿児島水産高校の生徒

本市と北海道稚内市との友好都市締結5周年記念事業の一環として、6月29日から7月3日までの期間、鹿児島水産高校の生徒たちが稚内市を訪れました。

「薩摩青雲丸」が稚内港に入港

6月21日に枕崎港を出港した鹿児島水産高校の実習船「薩摩青雲丸」が、6月29日に稚内港に入港しました。

30日には入港セレモニーが行われ、稚内市の関係者や稚内高校の生徒たちが実習生や指導教官などを歓迎しました。セレモニーでは、稚内高校の元紺谷尊広校長から「皆さんにとつて実りのある実習、研修となるよう稚内を満喫してください」と歓迎の言葉が送られ、安西純一船長が「ここまで北に来たのは初めてのことです。これを機にこれからも入港させていきたいと思います」とあいさつを述べました。その後、稚内高校吹奏楽部の生徒たちから安西船長に入港記念のプレートと花束が贈られました。薩摩青雲丸は6月30日と7月1日に一般公開され、約250人の稚内市民らが見学に訪

れました。

稚内市役所を表敬訪問

鹿児島水産高校食品工学科の生徒5名が6月30日、稚内市役所を訪れ、稚内市の青山滋副市長を表敬訪問しました。コンカツプロジェクトでの取り組みなどについて報告を行い、青山副市長から生徒に記念の名前入りプレートが贈られました。

コンカツグルメを稚内市民に振る舞う

7月1日、稚内市の副港市場で、食品工学科の生徒たちによるコンカツグルメの無料振る舞いイベントが行われました。振る舞われたのは、コンカツラーメンとカツオのタタキ、薩摩青雲丸で水揚げされたメカジキのあら煮の3品。コンカツラーメンは、黒江晃生さん、堂原健世さん、岩下涉さん、大徳広夢さんの4名が担当。1月に行われた市通り会連合会とのラーメン対決からさらに改良を重ね、魚介・鶏ガラ・豚骨の3つのスープを使った自慢の一品が出来上がりました。

稚内高校生おススメの地を巡る

7月2日は、稚内高校生が企画した稚内市内の観光地を巡り、鹿児島水産高校の生徒たちは稚内市について理解を深めました。

コンカツプロジェクトを通じて、さまざまな取り組みを行ってきた鹿児島水産高校と稚内高校。今回の稚内訪問で、生徒たちの交流がさらに深まりました。今後の生徒たちの活躍が、両校及び両市の活性化の起爆剤になるものと期待されます。

